秋の彼岸法要にはお参り頂きありがとうございました。この世とあの世を貫くいのちのことを学ぶのが宗教です。頭の理解を超えているので、当然わからない話になります。わからない話を聞き続けるのは難しいですが、仏さまのことが簡単に分かったらおかしいのです。でも私たちが今生かされているいのちのことですから大切に聞かせて頂かなくてはなりません。お浄土は死んでから往く世界でなく、生きている今、心に頂く世界です。　合掌

「ひそかにおもんみれば　難思の弘誓は難度海を度する大船、無碍の光明は無明の闇を破する恵日なり」

『教行信証』総序文

（訳）心を沈めてよくよく考えて見ると、凡夫の浅はかな思慮の及ばぬ弥陀如来の本願は、まことに渡り難い生死の海を渡して下さる大船である。また煩悩のさわりにもさえぎられずして、私共の胸の奥底までも照しとおして下さる光明は、あらゆる煩悩の源である自力疑心の闇を破り、そして孤独な淋しい冷たい心を温めて下さる太陽であります。　『教行信証講義』法蔵館

**【令和１年度第２回定例聞法会】**

**時：令和１年　⒑月　⒔日（日）午後１時半から**

（持ってくるもの　念珠　勤行　肩衣）